

〈重点研究2〉持続可能な地域運営に備えた人材育成に関する研究 ～担い手確保に接続する動機付けの手法開発～

研究期間 2022年4月～2025年3月（3年間）

専門研究員 皆田 潔、研究企画監 有田昭一郎

背景と目的

近年、若い世代の地域への関心がふるさと学習等の効果により高まり、地域活動への参加と課題解決につながっています。他方、若者と地域運営の担い手である高齢者層との間に位置する世代は、共働き世帯の増加や子どもの減少による子ども会活動の縮小等を原因に、地域との関わりが減少し、地域活動を理解する機会そのものが減少しています。

地域の担い手を確保するためには、まず、その地域への理解を深め、関心を高める段階が欠かせません。それが地域

に対する基盤となり、地域活動への参画意欲に結びつくと考えられます。

そこで、本研究では、特に教育機関で展開される地域に目を向けるための地域志向教育に着目し、学習内容や学習経験を分析、そして他県の地域学習の実施状況と本県と比較し、学習の成果を可視化します。

また、働き世代、子育て世代等の大人が地域活動に関わってもらうためのアプローチの仕方の検証も併せて行います。

地域運営の担い手人材の確保と育成の考え方

主体性や課題解決力の源泉となる地域への愛着、関心を深める地域志向力の涵養が必要

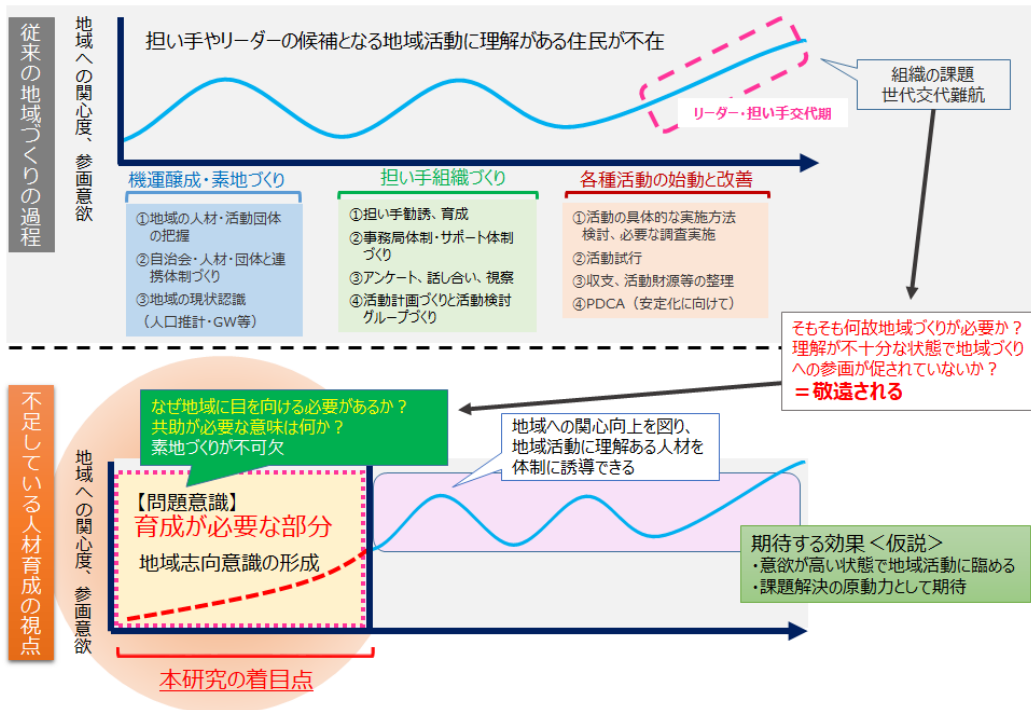


図1 研究のイメージ 問題意識と課題設定

研究の方法と到達点

研究の方法		研究の到達点
①アンケート調査にて中学、高校時代における地域学習やふるさと教育の経験量や学習内容および、学習効果を把握 【方法】国内10か所の高校、大学、専修学校等にアンケート調査を実施	→	◆ 中学高校時の地域学習の経験の有無、学習内容を地域別に整理し、島根県の地域学習の状況と地域志向を明らかにする
②働き世代、子育て世代等の大人が地域に関心を持つための動機の解明を試みる 【方法】調査フィールドにてアクションリサーチ	→	◆ コミュニティの共助意識が醸成する活動として着目する地域ぐるみのリサイクル活動を検証材料に用い、新たな人材が地域活動への参画する条件を把握
③学習者の地域志向力を高める地域学習コーディネーターに求められるスキルの整理 【方法】地域学習CDと地域学習を経験した地域に還流した人物へのヒアリング調査	→	◆ 大学等のフィールドワークを受入れる地域において、学習を経験した人材が卒業後に地域に還流した事例を用い、その要因を分析する ◆ 学習者の還流の実績を持つ地域学習CDと学習者との関わり方からノウハウを整理し、育成教材を作成

研究の成果

- アンケート結果より、地域づくりにとても関心がある、少し関心があると答えた高校生、大学生は、79%に達した（図2）。
- この背景には、中学の学習経験が30歳以上で30%以下、高校では0%であるため、若者の中学、高校時の学習経験が影響していると考えられる。地域学習の経験が豊富な30歳代以下は地域づくりへの参加が期待できる（図3）
- 地域学習の経験の有無を地域別にみると、中学では島根県が総計63%に対し、76%、高校では総計49%に対し、本県は79%であった。ふるさと教育の推進の成果が他地域との差に表れた結果と言える（図4）。
- 中学、高校の地域学習とも、地域への関心を高める効果が認められた。また、中高と連続して地域学習を経験した場合、高校時の学習（課題解決型学習等）の取り組みにより、より高い関心の獲得に効果があった（図5、図6）。
- 中学では地域を知るための受動的な学習が中心で、高校では課題解決型学習や異世代、異業種と交流する学習にシフトする傾向を確認した。ただし、高校でも調べ学習やまちあるき等の地域を知る要素の学習の実施割合も高い（図7）。
- 上記のアンケート結果を踏まえ、中高連続した学習を前提としたカリキュラムと両者を接続するCD配置を提案（図8）。
- 大人世代に向けた地域活動への誘引は、自身が得られるメリットを感じてもらう工夫により参加が期待できる（図9）。

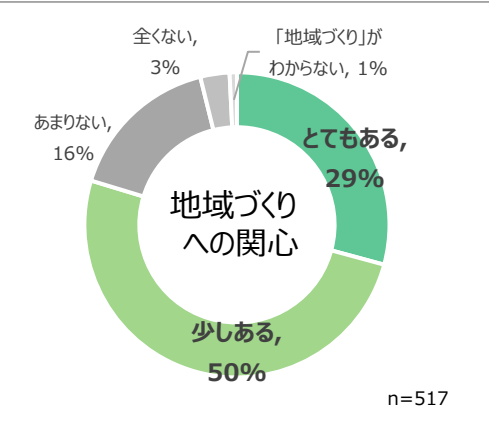


図2 地域づくりに関心があると答えた高校生および大学生の割合

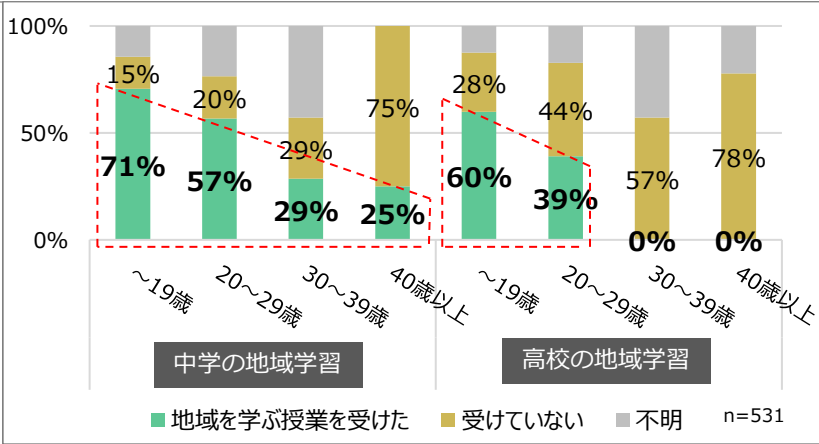


図3 年齢別にみた地域学習の経験

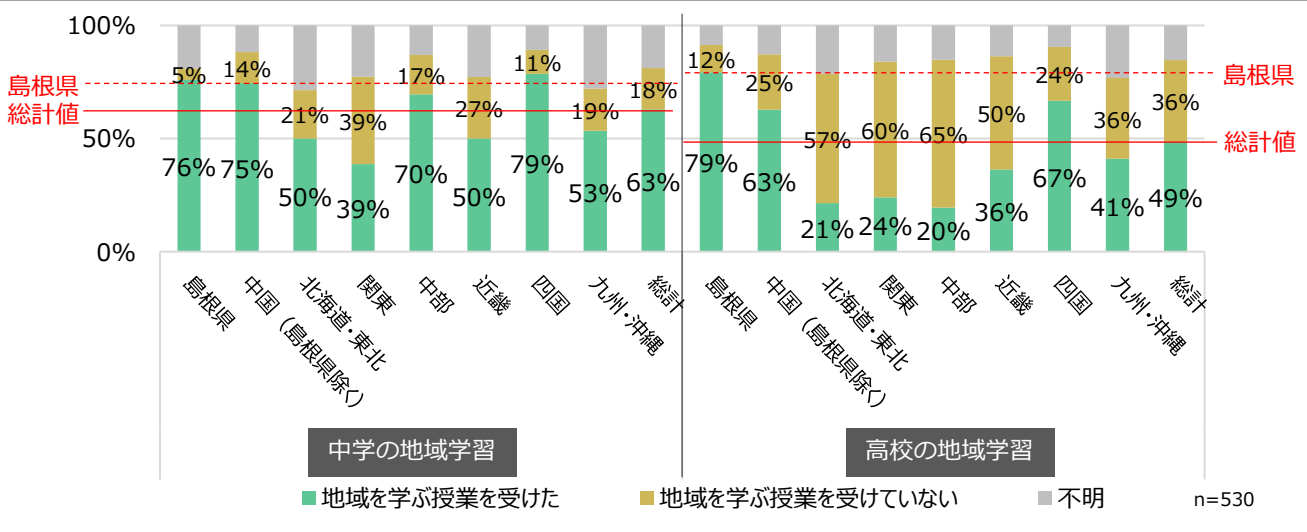


図4 地域別にみた中学、高校時における地域学習の経験比較

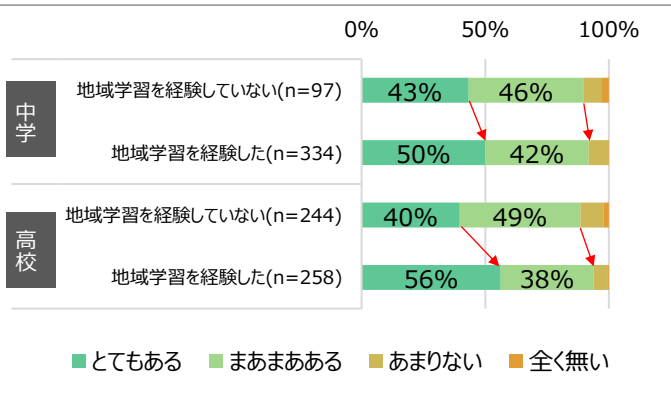


図5 地域学習の経験と地域への関心の関係

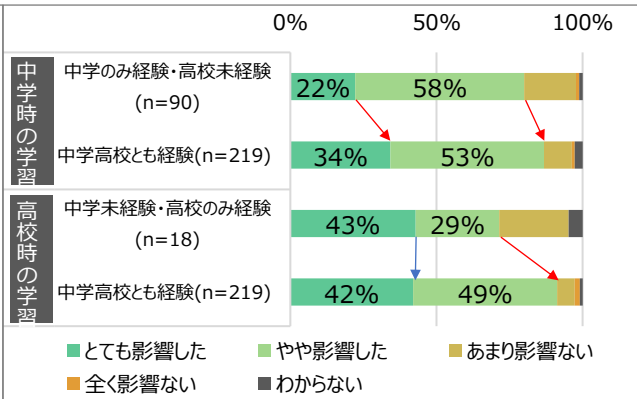


図6 中学、高校の連続した地域学習が地域への関心付けに与える影響

中学で経験した学習内容 n=334

まちあるきと地図づくり	52.1%
地域に詳しい人に話を聞いた（調べ学習含む）	49.1%
地元企業インターンシップや農業体験をした	30.2%
地域の祭りなどのイベントに参加した	27.2%
地域課題をテーマにその解決策を自らが企画し実践した	23.1%
地域の資源や素材や特産品について学んだ	20.4%
地域資源等を活用した商品開発を行い販売した	8.1%
地域の自然保護や環境活動に参加した	7.5%
地域の防災活動に住民と一緒に参加した	6.6%
多様な人々と地域を考えるWSや対話の場に参加した	6.0%
地元出身の大学生や地域で活躍している大人と対話した	4.2%
地域在住外国人と交流したり海外の文化などを学んだ	2.4%

高校で経験した学習内容 n=258

地域課題をテーマにその解決策を自らが企画し実践した	44.2%
地域に詳しい人に話を聞いた（調べ学習含む）	31.4%
まちあるきと地図づくり	26.7%
地元企業インターンシップや農業体験をした	23.3%
地域の資源や素材、特産品について学んだ	21.3%
地域の祭りなどのイベントに参加した	15.9%
地元出身の大学生や地域で活躍している大人と対話した	15.5%
多様な人々と地域を考えるWSや対話の場に参加した	12.8%
地域資源等を活用した商品開発を行い販売した	8.5%
地域の防災活動に住民と一緒に参加した	7.8%
地域の自然保護や環境活動に参加した	7.0%
地域在住外国人と交流したり海外の文化などを学んだ	2.3%

図7 中学高校時に経験した学習内容の比較（複数回答）

提案1 中学高校、各課程で地域づくりに有効なスキルを身に付ける育成カリキュラム形成

課題：地域資源に影響され体系的カリキュラムの展開が困難

提案2 中高校の地域学習を連続的にマネジメントする接続CDを配置 併せて高校卒業後も学習者と地域との関係維持の役割を担う

課題：市町村立(中学)と県立(高校)の異なる所掌の連携性

高校の地域学習設計における中学校単位の学習内容の違い

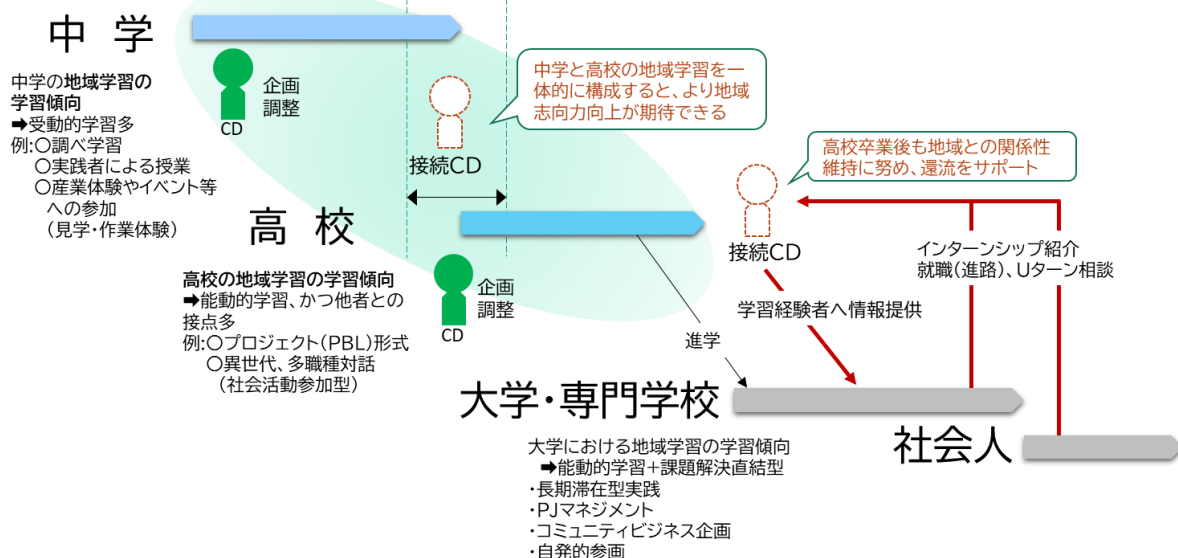


図8 中学高校の地域学習をより充実させるための提案

地域ぐるみで取り組む家庭ごみのリサイクル活動をサンプルにしたアクションリサーチによる整理

4象限中の円の大きさは人数の割合を示す

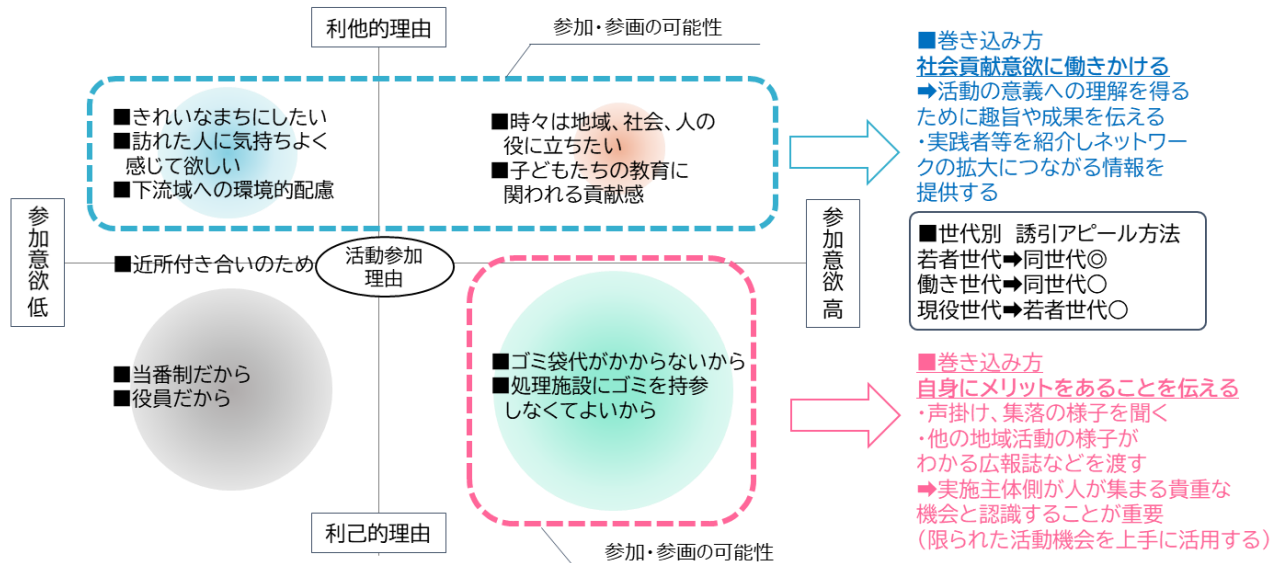


図9 働き世代、子育て世代等の大人における活動参画のアプローチ方法